



## ■開館20周年～こんなことします■

### 【平成26年度主要事業実施計画】

4月

- ・転入者講座「鹿児島、どんなとこ?こんなとこ!」(26日)
- ・開館20周年記念維新ふるさと館感謝デー(29日)

5月

- ・春の茶会(3~6日)
- ・PTA関係者等歴史講座  
「子どもに語る鹿児島の歴史」(16日)

7月

- ・第1回歴史講座「幕末動乱から明治への胎動」(5・6日)
- ・維新ふるさとショップ(仮称)オープン予定
- ・夏休み親子歴史講座(27日)

8月

- ・教職員のための歴史講座

9月

- ・西郷南洲をしのぶ書道展(下旬~10月)

10月

- ・秋の茶会(上旬) ・第2回歴史講座

11月

- ・第3回歴史講座 ・歴史シンポジウム(下旬)

12月

- ・第4回歴史講座

1月

- ・新春寄席(上旬) ・第5回歴史講座

2月

- ・大園康広「維新を歩く」原画展 ・第6回歴史講座

3月

- ・歴史解説員と巡る「維新の旅」

※各種イベント、各種講座は変更になる可能性があります。  
詳しくは当館ホームページ、市民のひろばでお知らせします。

## 温故地新

ふる故きを温ね、地元を新たに。

### ■オリジナル絵はがきをプレゼント

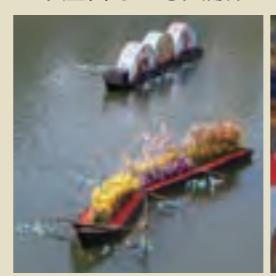
開館20周年記念としてオリジナル絵はがきを制作。「維新を歩く」をテーマに大園康広さん(鹿児島市)が市内の風景を描いたもので、4月29日の開館記念デーに、1,000名の皆さんにプレゼントしました。



●「維新を歩く」をテーマに作成した絵はがきセット

### ■桜灯りと水上の音楽祭開催

4月5・6日、甲突川沿いで「桜灯りと水上の音楽祭」が開催されました。花と灯りの回廊では、甲突川に花筏が浮かび、河畔ではライトアップも行われ、家族連れなどが散策を楽しんでいました。スウィーツブースや屋台なども大賑わい。来年も楽しみです。



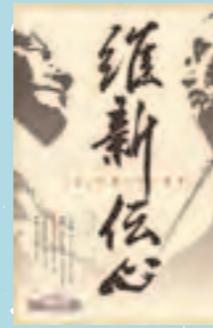
●甲突川に浮かんだ花筏



●知覧から出展、ねぶた絵

## “維新伝心” これまで、これからも

開館20周年記念にあたり、館運営の基本方針をキヤッチフレーズに表現。“維新伝心”これからも、職員一同楽しく、分かりやすく“維新の心”を伝えていきたいと思います。



## 「維新ふるさとショップ」(仮称) オープン

この7月に、鹿児島の特産品(食品を除く)や明治維新に関連する書籍等をお買い求めいただける「維新ふるさとショップ」(仮称)をオープンします。

これは来館者の皆さんの利便性を考え、開設するもので、たくさんの方々にご利用いただけよう、取り組んでまいります。ご期待ください。

# ISHIN 維新

明治維新を分かりやすく、楽しく

維新ふるさと館情報紙

【No.10】

■ 平成26年(2014年)春季号  
■ 発行:鹿児島市維新ふるさと館  
〒892-0846 鹿児島市加治屋町23番1号  
TEL.099-239-7700/FAX.099-239-7800  
<http://www.ishinfurusatokan.info>



## ～春らんまん～ 心和ます甲突川(神月川)



ハラハラと散る桜並木を散策する人、橋のたもとにそっとたたずみ川面に影を映す人、水の流れに沿って眼を上げると、そこには七色に姿を変える桜島の雄姿が浮かびあがる。

行きかう人々の心を和まし、なんとも言えないすがすがしい風情を醸し出す甲突川河畔の風景である。

明治維新で活躍した多くの元勲たちも、幼少時に大いに遊び親しんだであろう甲突川。

三国名勝団会によると、昔は「神月川」と記したある。「神月川」は草牟田にある「宇治瀬神社(鹿児島神社)」の神嘗祭に由来するという。「宇治瀬」は「宇津佐」とも書き「渦」を意味し、「瀬」は激流を意味しており、今のおだやかな流れからは想像できないが、昔は渦巻く激流があったことを想像させる。また、「甲突川」は、南北朝時代に南朝・北朝を代表する武将が川中で戦い、兜を突いて決着

をみたことから「甲突川」と命名したなどいくつかの説がある。

かつては城下町にいくつかの支流をもち、清滝川もその一つであるという。後に現在の流れに整備され、調所広郷の天保の改革のころ、西田橋など五石橋が架けられたものであるが、今は石橋記念公園に移設されている。下流の天保山は川の浚渫により砂を揚げた場所であり、昔は「砂揚場」と呼ばれ藩の軍港や御船手があった所である。

近年、甲突川流域は緑地公園として整備され、「維新ふるさと館」や「維新ふるさとの道」、桜並木や大久保利通・松方正義銅像など、市民や観光客の憩いの場として整備され定着してきた。

早いもので、「維新ふるさと館」もこの4月、開館20周年の節目を迎えた。歴史観光施設、市民の生涯学習施設として、一層の充実を図る節目の年としたい。

(文/福田賢治維新ふるさと館特別顧問)

